

北海道生物多様性保全ダイアログについて

～保全計画改定への期待～

1 趣旨

北海道生物多様性保全計画の見直しを前に、北海道の自然環境をめぐる課題や、将来、北海道の自然とどのように向き合っていくかを考える機会として、様々なテーマを取り上げるダイアログを開催する。

2 目的

- 北海道の生物多様性保全政策の世界を広く関心を持つ人に知ってもらう。
- 北海道の自然や生物多様性が持つ価値や可能性（問題意識）を発信する。
- それらの価値の保全と持続可能な利用の面から、マルチステークホルダーによる政策への期待を可視化する。
- これらにより、原理的な対立に陥りがちな議論から、共創へのシフトを後押しする。

3 主催

北海道

北海道環境パートナーシップオフィス（EPO 北海道）

北海道生物多様性保全活動連携支援センター（HoBiCC）

4 参加対象者

- 自然環境保全・利用に関心のある人々
- 一次産業や観光など、生態系サービスにより地域経済を担う人々
- コロナ後のグリーンリカバリーに期待する人々

5 開催概要

(1) 開催時期

令和3年(2021年)12月～令和4年(2022年)末にかけて計6回程度開催予定

(2) 開催形式

オンライン形式、各回1.5時間程度、参加費無料

(3) 内容

- ・ 生物多様性に関するテーマは多岐にわたることから、ある程度絞り込んだ上で、テーマ毎にゲストによる話題提供と問題提起、政策への期待等について講話
- ・ モデレーターが参加者の質問・コメントを基にゲストと意見交換

6 開催結果及び予定

(1) 第1回「生物多様性をめぐる現状とこれから」

日時：令和3年(2021年)12月21日(火)16:00～18:00

ゲスト：渡辺 綱男氏（一般財団法人自然環境研究センター上級研究員）

モデレーター：吉中 厚裕氏（酪農学園大学農食環境学群環境共生学類准教授）

報告：北海道生物多様性保全計画見直しに向けて

参加者：79名

(2) 第2回「環境保全はなぜ難しいのか」

日時：令和4年(2022年)2月16日(水)16:00～17:30

ゲスト：宮内 泰介氏（北海道大学大学院文学研究院教授）

モデレーター：吉中 厚裕氏（酪農学園大学農食環境学群環境共生学類准教授）

参加者：99名

(3) 第3回「災いを恵みに変えて－自然豊かで安全・安心な地域づくり」【予定】

日時：令和4年(2022年)6月22日(水)15:00～17:00

ゲスト：中村 太士氏（北海道大学大学院農学研究院教授）

モデレーター：吉中 厚裕氏（酪農学園大学農食環境学群環境共生学類准教授）

7 参加者からの主な意見（概要）

- 里地里山の利用管理について、地域の人々と自然環境とのつながりがより必要であると感じた。
- 道内では、国立公園内の湿地やラムサール条約登録湿地と、それ以外の湿地との間で実態把握や保護の度合いに大きな差が生じており、この差を埋めることは生物多様性保全の戦略において重要なアプローチではないかと考える。
- 気候変動対策において、気温の長期予測が科学的に示されているように、生物多様性に関する指標の増減について、市民にも分かりやすいように見える化できると身近な課題であると感じるようになると思う。
- 北海道の生物多様性保全計画を検討していく上で、保護地域制度一択ではなく、大きな産業である農業との相互の影響や、都市部と自然の境界エリア・二次的自然の多様性の保全が重要な課題だと感じている。
- 野辺の自然への取組が軽視されがち。問題はごく普通に生きている人たちがもっと身近な自然に関心を持ち、どうあるべきか考えることだと思う。